

# 四十年の歩み

結城光雄



私が大正六年に日本聖公会の教職養成機関であった東京聖三一神学校を卒業して、八戸聖公会に赴任ときました時、友人の一人が私に「君は幼稚園の園長さんも兼ねることになるんだね、どうだい用意があるのか」と聞かれて、寝耳に水の思いをさせられたことが思い出されます。そうだ私はそういうこともあるという心構えを前もっておって、教育技術を身につけるまでにはいかないとしても、少しは幼稚園教育に関する書籍に眼を通し、機会を作って都内の有名幼稚園の參觀ぐらいはしておくべきであった。したらこの期に及んでこんなにみじめなうろたえ方もせずにすんだものをと、いまさら自分の迂闊さが悔まれたのであります。

対外関係や経営面を担当し、保育の実際にふれずにすんでおりました。八戸在住二年半で私は福島県の平聖公会に転任いたしました。ここにも湯本の方に附属の幼稚園がありました、ここには英国からの婦人宣教師でロンドン大学を首席で卒業し、懇望されて我が国の学習院女子部がまだ華族女学校と称した頃の教師となって来日した婦人が、契約満期と共に我から進んで婦人宣教師となったという傑物があり、その人が団長で、私はそのワキ役として主事兼チャプレンというような名目で、将来是が非でも園長としての責任をもたねばならないからとて、何やかや雑務をおしつけられ、ここでも主として経営面の仕事や対外関係の仕事进行处理するが私の役目でありました。そしてこれも在住二年半で、大正十一年七月、日立に転任、今度は名実共に園長として

の責任をもたねばならぬこととなりました。こうなることは最初から分かりきった事でありましたが、まだ園長となる心構えができずにその座にすわってしまったのであります。こんな事ならこれまでの五年の間に、もつと繁々と幼稚園に顔を出し、見様見真似でもよいから実際の保育の面にもふれておけばよかったのにと思いましたが、時既に遅しで遮二無二その場に立たせられる事になってしまったのであります。

それからの私は名実共に幼稚園長になりたいたいと思ひまして暇があると先ず園児の中にまじって遊びました。その頃の私にできることは園児にまじってただ遊ぶことと、聖書のお話しをしてやることだけでありました。努めて児童心理に関する書を読み、保育の実際の指導書とも首引きをしました。が、余りに得たところがあつたと思われませんでした。しかし何のテクニクももたず、注文もつけずにむき出しのまま幼児と共に遊んでおる中に、それは私にとつて何とも言えない喜びである事を知りました。子どもと一しよになら飛びますればままたとも致します。今ではそうはゆかなくなりましたが七、八年前までは新入園児の名を一番早く一番早く知ることのできたのは、若い先生たちではなく私でした。良寛和尚ではないが子どもと一しよに遊べることが何よりの楽しみであり、それだけで幼稚

園長になれた事を今は無上の幸福と感ずるようになりました。よく人から言われるのですが、先生はお若いと。半分はお世辞としても、もし本当に若いところがあるとすれば、それは毎日園児と一しょに過せる賜ものであると思います。

それに幸いな事には園内においての人の和も先ず上々でただ一度いやな思いをしたことがあっただけで四十年を過ぎてきたことです。戦後戦災のために焼けてしまった幼稚園の再建の事で動きはじめると、是非私の地区で私の地区でと殆んど同時に二カ所から二葉幼稚園の再建を求められて、一方は焼け残った会社のクラブを、一方はその地区の公会堂をお母さんたちが借り受けて私の幼稚園として発足させてほしいとの申入れを受け、いずれも断りかねて一時に二カ所の幼稚園の経営に当たることになりました。その中の一カ所は数年間幼稚園として存続しましたが、後に所在地の環境から保育所になることになりましたので、それを機会に私は手を引くことに致しました。

ところがこうした折角責任の一半がまぬがれたと思っておりましたとたん、今度は教育畑出身の婦人の市会議員さんから、市では今幼稚園の必要を痛感しておるのでありますから一つあなたの幼稚園を四、五カ所に作ってもらえないか、もしそのつもりがあるなら発

足に至るまでのお膳立は私たちがしようとのことで、二、三の候補地まで挙げての感謝すべきお勧めを受けまして、そのような氣勢にあおられてトントントン拍子に土地建物が与えられてできたのが、今の分園の生い立ちであります。

こうして前後四十五年にわたる私と幼稚園との関係ができ、始めは多少迷惑にも感じておりましたが、後には私のもっとも生き甲斐のある仕事となり、今もって教育技術は身につけてきたとは申しかねますが、童心にかえて幼児とただ遊ぶことに喜びを見出し、そこに園長としての一つのあり方を見出して

おるものであります。偶感

○ある時は細くかすかにある時はまたく強く寄り来し道

○禿頭園長先生禿頭とリズムに乗せて歌い来る子ら

○弾丸の如く飛び来てお早うと笑いはころばす円き顔の子

○悪たれもその愛情の表現に用いてケロリと屈托もなき

○百人に百色の愛を分けもちて心と言ふは奇しきものかな

(茨城県・二葉幼稚園長)

## 西元茂子



「光陰矢の如し」とか。過去四十年を回顧すればその速やかさに驚くのみ。

四十年といえども小学校に教鞭をとること八年、幼稚園に三十二年、若い血潮に燃えてまっしぐらにいそしんだ昔が一入なつかしく偲ばれる今日、気分は若くとも身体の活動の点は如何とも比すべきにあらず、何時までも若くていたい心でいっぱいである。

四十年前には夢にすら想像できなかった文化、科学の進歩の著しき。小学校低学年を担当する頃、今の時代のように便利な教具の販売もなく、自分自身で考案し各児童に与え、またボントン式のものを作製し、公開を勧められ、その効果を認められた。また、低能児グループを組織して能力程度に応じた指導をし、あの時代には新しい試みだと県視学より

賞せられたことも楽しい思い出である。

この学校は体育に特長をもち、県下切つて一番に女児の体操服、男児は黒筋入りのパンツで異彩を放ったが、これらは女教師が放課後、また日曜日も返上で全校児童のを仕立てたものである。当時は女教師は着物に袴という服装であった。児童が体操服であるのに先生が着物ではというのが女教師も体操服を作り、トップを切ったので県下教育界の話題となった。相和して団結する妙味は格段であった。当時と現代の世相の変化に驚異する（大正十三年）。

昭和五年幼稚園保母となる。

ここ美哉幼稚園創立一年後で当時幼稚園に入園する園児は特殊な家庭で園児も僅か二十名を数える程であった。私と他に一人の先生と二人で、保育内容はお遊戯に積木、折紙、ぬりえ、おままごと、童話程度であった。積木といつても小箱入で赤黄緑藍など着色し組立模型図によつて静かに模型図通りに積み重ねる程度で何をするにも画的であった。或る時皆の積木をいっしょにして何でもよいかから作つてごらんとしようと、急に活気づき燈台に行く道た、この長い道が一番角だ、こりから二番角、今度は三番角た、三番角の一番先きに燈台を立てるのと大根一本（買つていた大根を見つけて）、丸いしっぽの方を上にして燈台ができた。海に舟だと積木を重

ねたり折紙で舟を折つたりお魚に木の葉を浮かべて大よろこび、リーダーであった俊郎君の顔が浮かぶ（昭和七年）。

その頃県・市の何処に幼稚園があるのかも知らず、ただ単に孤立状態で黙々と我が仕事のみ忠実であった。昭和十一年頃米子市に私幼二園、保育園二園、現在境港市（当時境町）に私幼二園、保育園一園計七園が相集り、語り合ひ、遊戯の交換会などをすることが発足した。

その頃人形芝居の紹介があり、物珍らしく早速夏休み中に作製にかかり誕生会の時には人形芝居を見るのを唯一の楽しみに待つのであった。平穩な年が続いていたが昭和十二年日支事変が起つたが、国内はさしたる事もなく昭和十五年は建國二六〇〇年の式典が盛大に行なわれ、幼児達も旅行列をよるこんだ。

翌昭和十六年十二月八日は大東亜戦争が勃発し、年々戦火が硝になるにしたがって、落ちつけない日々が迫つた。本土空襲ともなれば覆せ、退避の訓練を日課とし、空襲警報が鳴りびびくと何はさておいても地区別に家庭へ速やかに送り届け、途中で事故なき事を念じつつ心臓の鼓動を高めた。二十年四月二十三日、ここ境港市には、あかつき部隊の火薬庫があり、積荷の火薬を運搬中、引火爆発、我家、幼稚園、本堂共外郭だけは残つたもの

の硝子戸は全壊、柱は折れる箇所もあり、天井、壁土は、落ち、瓦は飛び、雨ともなれば大きき状態、園児宅遭難者多く散りぢりに避難され休園状態となる。日増しに国土空襲は烈しく当市は危険状態となり、疎開勧告を受け具体的に話を進行中八月十五日の終戦を迎えた。破壊された園舎は資材不足のため充分の修理もできず、明るかつた園舎はみじめな姿となり、一時を凌いで開園の運びとなつたのが十一月、物価値上り、物資はなく、食うにも食えないようなものばかり、雑草の粉末、畠の隅に捨ててゐるような親指大のさつまいも、キューバ砂糖などの配給には発育盛りの子どもは胃腸をそこねる。二度とあんな世の繰り返しをしないことを心の底の底から念じる。

無理に無理を重ねたせいか二十一年十一月遂に病魔におかされ床づく身となった。床づいていても気がでない。三月ともなれば卒園児を送る準備、新入児を迎える準備も進めなければならぬ。全快とまで行かなくともほつぽつ動かれそうになった。

日本国内は米國マッカーサーの支配下におかれ有為転変の世となった。教育方針は全く変り、スタートを切り換えて再出発、教員の資質向上が叫ばれ認定講習会が開かれ単位取得に懸命になった。PTA指導者講習会も開かれた。

幼稚園設置基準が示されなかなかの重荷を負わされるようになったが一步一歩前進し、基準に近づくべく努力しつつある事は子ども達の為に幸せ至極である。

二十四年には教育の一元化が叫ばれ教育の出発は幼稚園から大学までと、幼稚園の存在が認められるようになり、先生の資格も保母と呼ばれていたのが教諭となり、幼稚園関係者はその飛躍に喜びを感じると共に大いに白重する時機が来た。

昭和二十八年度は全国的に入園者激増し、当園も増築改築の一步を辿った(創立二十五周年)。

昭和三十三年一教室増築(お母さん達の絶大な努力があつて)

近年幼児教育の重要性か一般社会の方々に認識され、一年保育よりも二年保育の価値を評価される傾向の高まつてきたことは、幼児教育の真価を認められる時機が来たのだと喜びにたえない。

昭和二十五、六年頃は現在のように衛生思想は普及されな時代、S子、K子さんの顔色は悪く、リズムに乗らず、活力のない態度が気になり、ツベルクリン反応の結果、何回も20K離れた保健所に引率し早期に発見出来て、家庭に連絡し三ヶ月休養治療に努めたところ見違える健康児となり再登園、母子家族の安堵と歓喜、感謝のさまは今もお嬉しい思い

出。身体の発達を助長する遊具はいろいろ備えられ、視聴覚教育は進み、自主性創作力の進んだ事を嬉しく思う。

振り返って見るに以前の子どもは一般に依頼心強く何事をするにも助力を求めの者が普通であつた。それに比してこの頃の子どものようすを例挙すれば(自然物を用いて)、年少組の子ども達 砂場の丸いふるいに砂を盛り、おくれざきのおしろい花、サルビヤ、早咲きの山茶花の花を調和よく盛り合せ、先生、おいしいケーキです、食べてちょうだいと持つて来る。如何にもケーキのよう。その思いつきに目を見張る。

年長組。銀杏の落葉にマシクインクでいろいろ着色し、葉の使用法如何によつて独創力を發揮し、人形も花も蟻も多種多様、小鳥は羽を大きく広げて飛び交うている。どれを見ても趣きの変つたものはかり、子ども達の創作力に敬する。

子どもの私語を聞くともなく聞いていると、ほほ笑ましい。砂場のそのの柿の色づきを見上げてA児「柿が黄色になつたから取つたらいいや。」B児「みんな取るなよ。甘くなると先生がみんなに食べさせてくれるからとるなよ。おいしいぞ。」と二年保育の年長組の子らが制止する。色づいておいしくなつた頃、皮をむいて食後に全員に与える事を毎年の行事としている。子ども達のよろこびの声。

持ち合せの広告の紙や包装紙にいつしか覚えたらしい文字の手紙。

おかあさんせんせいいたいへんおいしいかあかみて。ありがとうございました。こんなこれでおしまい。 かずこより

字の書けない子ども達は私のところへ来てはありがとう、おいしかったです。と口々によろこぶ姿。嬉しいかな、与えるよろこび、受ける感謝、この情景はいつまでも続けたいと思つている。

当園では保護者の方も園児達も私のことをお母さん先生と呼んでいる。四人の家族ぐるみ、他に二人の先生とでやつている。

四十歩の歩みを振り返る時、私は幸に若い時から真実のみ教え(親鸞聖人の教)を聴聞する折を得て信仰の力に生かされたこと、なすことのないおわらは世に永き

よわいをたもつかいやならむ

の明治天皇御製が深く心に沁み、一生を貫く道への大きな力になつて為に励まされたこと、はありがたい心の幸です。しかしながら、我が足あととおほつかなければ、私を支えて下さる大勢の方々力の強さに今日まで歩ませていただいた御恩は忘れることなく感謝しなおなお一層の励みとなる事を誓う。

(鳥取・美哉幼稚園長)